

ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊)

発行部数12万部・非売品

YAMATO WELFARE FOUNDATION

No.38

4月20日発行 2013 Spring

[有富理事長を囲んで]



障がいのある方の
夢をかなえる
行動を起こす



左より藤井克徳氏、武田 元氏、新堂 薫氏、有富理事長、亀井 勝氏

東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金
助成先を訪ねて

この町の夢を
次の世代へ
つなぐために p12



私たちの賛助会費が活かされています

■障がい者福祉助成金 助成先レポートVol.17 (和歌山県田辺市)

古い洋館を再生し、
コミュニティ・レストランの2号店を開店! p14

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便配達

地図にマークした数だけ、社会との接点が増えていく。 p16

「有富理事長を囲んで」

夢へのかけ橋 プロジェクト



経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

障がいのある方の 夢をかなえる 行動を起こす

ヤマト福祉財団の事業として、今年から新たにスタートする『夢へのかけ橋プロジェクト』。このプロジェクトは「障がいのある方の夢をかなえて、しあわせになる」ことを目的にしています。

座談会では、プロジェクトに参加する福祉施設が学ぶ三つの実践塾の塾長・武田氏、新堂氏、亀井氏にそれぞれの抱負をお話いただきました。また、藤井氏からは、実践塾の目標の根底にあるディーセント・ワークについてご意見を伺っています。



『夢へのかけ橋プロジェクト』とは
障がい者の抱く夢をかなえるために
行動を起こすプロジェクトです

『パワーアップフォーラム』が
「夢へのかけ橋」の入口

現状を見つめ直しステップアップの
きっかけをつかむ

三つの『夢へのかけ橋 実践塾』に参加

新堂塾 武田塾 亀井塾

実践方法・課題解決方法を学び、
実践に取り組む

『夢へのかけ橋 事業改革モデル化資金』

を使って

利用者さんの給料5万円へ、
さらに10万円の世界へ

「障がいのある方の夢を
あきらめることなくかなえていく」

「障がいのある方の夢をかなえる
プロジェクトをはじめます」

有富理事長

有富慶二理事長(以下敬称略)今日
はみなさんお忙しい中、お集まり
いただきありがとうございます。
今年でヤマト福祉財団は、設立20
年目を迎えます。これを機に、もう
一つレベルを上げて、障がいのあ
る人たちの自立と社会参加を支援
できるようにしていきたいと考え
ています。

ヤマト福祉財団は、障がいのあ
る方々の収入が増えれば豊かで幸
せな人生の夢が実現すると信じ、
福祉施設が『経済的自立力』を兼ね
備えることこそ、障がいの望む
『夢の福祉』であると考えています。
今年、この『障がいのある方の
夢』をより具体的な形で示すこと
からはじめていこうと思います。

これまで財団では、福祉施設や
作業所で払う給料を上げていくた

めに、パワーアップフォーラム、新
商品開発や生産性向上に必要な道
具や設備の助成、小倉昌男賞受賞
者を塾長とする実践塾と、さまざ
まな支援事業を行ってきました。
しかし、給料が上がったその先
については「利用者さんの生活レ
ベルが上がり、良いことがあるよ
うにの漠然とした言い方でしたの
で、今年からはお給料が増えて「こ
んなほしい物を買えるようになった」
「家族で海外旅行にも行ける
ようになった」など、障がいのあ
る方のいろいろな夢が実際にどう実
現できるようにしたかということ
も含めてお伝えしていきます。

この利用者さんの夢をもっとた
くさんかなえていけるように、今
年から新たに「夢へのかけ橋プロ
ジェクト」をスタートすることに



ヤマト銀座ビル応接室にて

しました。
藤井克徳氏(以下敬称略) いまま
では別の新しいプロジェクトを
はじめののですか。

理事長 そうです。具体的には、い
ままで実験的に行ってきた実践塾
を、今年からは『夢へのかけ橋 実
践塾』として、新たに亀井さんの塾
を加えて三つに増やします。ここ
に集まる塾生には、施設の経営や
ビジネスについて勉強しながら、
最終的には『ビジネスを成功させ
るための武器となる具体的な事業
改革プラン』を自ら考え出し、実践
してほしいのです。例えば「新しい
得意先を増やすには、プライバシ

ーマークの取得が必要。プライバ
シーマークを取得すれば売り上げ
が上がり、利用者さんの給料をア
ップできる」といったプランを申
請していただきます。財団は、その
事業を実現するために『夢へのか
け橋 事業改革モデル化資金』と
して、いままでは別に予算を用
意して支援していきます。
『実践塾で勉強した施設が行動
を起こし、成果を上げていく』そし
て『それを見た他の施設がどんど
んマネをしていく』。そんな流れが
『夢へのかけ橋プロジェクト』で生
まれるようにしていきたいです。

「毎月、PDCAを徹底することで

給料アップを達成しました」 武田氏

理事長 それでは武田さんから、
これまで実践塾をやってこられた
感想などをお聞かせいただけます
か。

武田 元氏(以下敬称略) 正直言
って最初はどのようなものかと不安
で一杯で、どうやって進めていっ
たら良いのか皆目見当もつきませ
んでした。でも塾の目標は明確で
したので塾生には「この塾は、3年
間で給料を5万円にする塾です。
これに賛成できない人は、一緒に
やっていけませんよ」と宣言して、
スタートしていくことにしました。
この目標を見失わないように、そ
の後の例会でも何度も塾生にお話
しています。そんな形ではじめた
わけですが、半年、1年と経ち、学

んでいる塾生の姿を見ている中で、
面白いことに気がついてきました。
なにが面白いかというと、当たり
前のことを当たり前に行えば、ど
こでも給料を3万円ぐらいまでは
上げることができるというわかつたこ
とです。

理事長 当たり前のこととは？

武田 一つは、働いた人にはきち
んと給料を支払うということす
ね。「障がい重いから、そんなに
給料をあげないでいい」などと考
えていたところもありましたから、
そんな考えは間違いだと繰り返し返
し説明し「一定の給料を利用者みん
なに支払うのだ」と強く自覚して
もらいました。

もう一つは、PDCA(Plan・



Profile・武田元氏

1942年、宮城県生まれ。1966年に宮城県公立学校教員になり31年間勤務。1979年から地域で障がい者に関わる活動に参加し「はらから会」を立ち上げる。以来、障がい者施設の建設、運営に力を注ぎ、2004年～2010年度まではきょうされん宮城支部長を務める。社会福祉法人はらから福祉会理事長。利用者の暮らしを支えるため蔵王で豆腐づくりを行い、利用者300人の時給は現在300円～700円を実現。この状況を2年で全員700円以上にする計画で事業に取り組んでいる。こうした実績を生かし、「障がい者の暮らし変革塾」の塾長を務め、塾生となった福祉施設の給料アップの指導を行っている。第3回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞受賞。

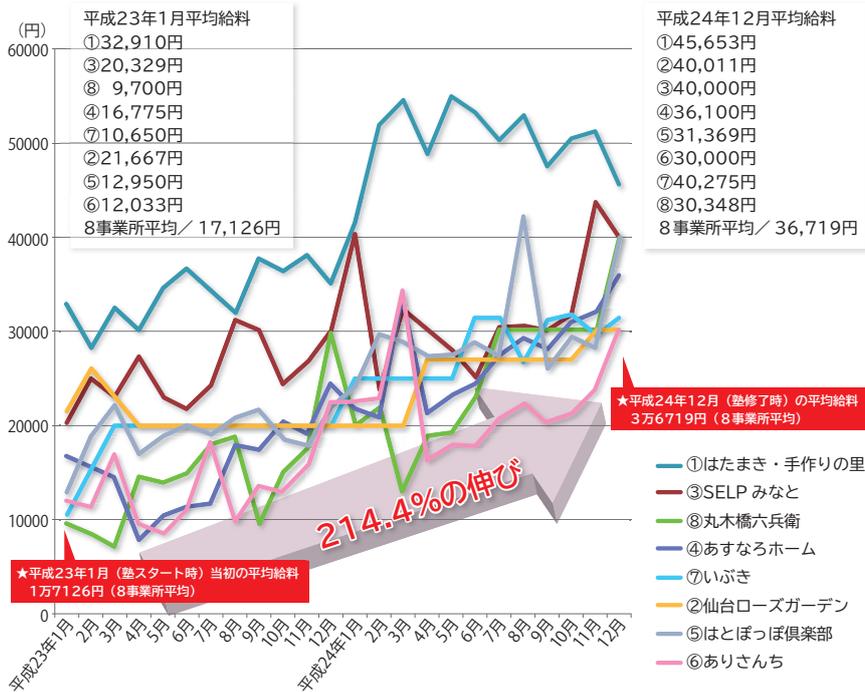


●「障がい者の暮らし変革塾」では「3年間で利用者さんへの給料を5万円に」を目標に、商品力と販売網の強化を進めている。さらに施設間双方向の道筋をつくり、自主製品の販売だけではなく、他の施設の商品も相互に販売するなど、協力し合うことでより強力な販売方法、商品開発を可能にしている。
【成果報告】
●参加施設…8施設（平成22年10月～平成24年12月 1期生）

Do・Check・Action)の徹底です。塾生は、毎月必ず計画を立て、一カ月の実際の売り上げと給料について報告を行います。その際に大事なものは、どのような経過で、どのような理由でそうなったのか、次はどうやって対策していくのかを考へることです。これを実践し続けることで、結果が数字に現れてきました。塾をはじめた当初は給料2万円未満の施設が5カ所もあったのですが、平成25年1月には全

施設が給料2万円を超えました。5万円を超えたところも2カ所あります。昨年(24年)12月だけなら、全施設が3万円以上を達成しています。
理事長 成果が現れていますね。武田 しかし、中には途中で辞めてしまう塾生もいました。「毎月、対策を立て報告を行うなんて大変でとてもやれない」「たった3年間で5万円の給料なんて無理だ」と判断してしまっただけです。

●塾生の支払い賃金の推移



が、辞めてしまった施設には、右肩上がりで成長していたところもあったので残念です。
震災により私たちは「働かないれば食えない」という事実を如実に知りました。それは障がいのある無関係なく日本国民みんなに言えていることです。働いて生活の糧を得る、この当たり前のことを達成するには、ビジネスにおける当たり前の努力を怠ってできるはずがないと私は思います。

「障がいのある方にとって働きやすい環境をつくるのが大切」 新堂氏

理事長 確かにその通りですね。では、新堂さんはどのような感想を持たれましたか?
新堂 薫氏(以下敬称略) 私の塾で学ぶのは、物をつくり販売する武田さんの塾とは違い、いかに仕事を受注し、効率的に作業・納品をしていくかです。生産性を上げる

ことで売り上げを伸ばし、給料を上げていくわけですから、作業の工程の中にどうやって利用者さんの働く場所をつかっていくか、仕事をまわして生産性を上げていくかがポイントになります。そのためにもまずは「障がいがある方にとって働きやすい環境」について学ぶことにしました。
理事長 東京学芸大学の菅野教授にアドバイザーになっていただいたんですね。
新堂 はい。菅野教授には「障がいがある方にとって働きやすい環境とはなにか」、「働きやすい環境をつくるにはどうすれば良いのか」、「いつまでになにをすべきか」など、現場で実践するための理論的な裏付けからご指導いただきました。その中には「働きやすい環境とは、わかりやすい、見えやすい環境でもある」ということもありました。「わかりやすい環境」とは、「いつ・どこで・なにをするかが見える環境」です。ここはなにをする場所かを明確にしなければなりません。例えば、働く道具と遊ぶ物がちやこちやに置かれていると、利用者さんはいまやっていることが、遊びなのか仕事なのかわかりにくくなります。また、私たちはDMの封入・発送作業をいくつもの工程に分け、利用者さん一人ひとりが得意なパートを担当できるように

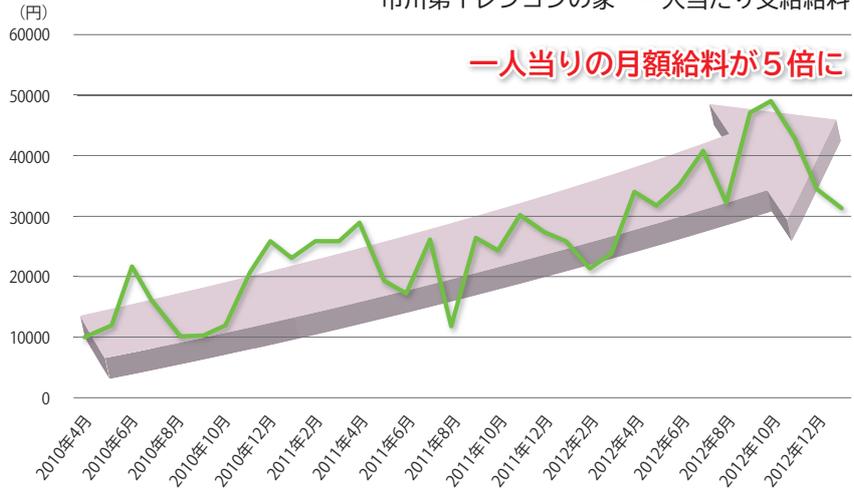
● 塾生の事例…市川レンコンの会／第1レンコンの家



Profile・新堂薫氏

1963年、東京都生まれ。学生時代より千川作業所と後援会活動、社会教育活動を通じて関わりを持つ。1985年に千川作業所に指導員として就職。1987年、チャレンジャー設立とともに異動。1999年にチャレンジャー施設長に就任。2003年には武蔵野女子大学大学院 人間社会科学部福祉マネジメント専攻 修士課程を修了。社会福祉士。現在、社会福祉法人武蔵野千川福祉会常務理事、きょうされん東京支部副会長。「障がい者の働くちから革新塾」の塾長を務める。第9回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞受賞。

市川第1レンコンの家 一人当たり支給給料



○改善点

- 利用者のみで作業ラインを構築
- 生産管理や利用者のスキルアップ
- 職員の営業活動推進

○結果 (利用者のみでの1時間当りの出来高)

- ダイレクトメールの結束：500部→1100部
「2.2倍」
- 採尿検査キットの袋詰め：50袋→200袋
「4倍」



●「働くちから革新塾」ではDM発送・封入作業にライン・工程方式を導入。実際に塾生の施設や事業所に赴き、働きやすい仕事場への環境改善、利用者それぞれが能力を発揮しやすい作業分担の方法や作業手順の見える化などを具体的にアドバイスすることで、生産効率のアップを図っている。

【成果報告】

- 参加施設…11施設(平成22年9月1期生)



工夫していますが、ここで大切なのは「作業の手順を、具体的にひとつひとつわかりやすく示してあげる」ことなんです。
こうした環境を整えた上で、利用者さんの行う作業が、最終的に世の中でどう役立っていくのかを見えるようにすることで、利用者さんの働く意欲も高まり、生産性も上がってきます。
理事長 なるほど。

「新しい仕事をつくるのは大変ですが、あえてそれに挑んでほしい」 亀井氏
理事長 では今年からスタートとする亀井塾について、亀井さんの

抱負などをお聞かせください。
亀井 勝氏(以下敬称略) ものすごくプレッシャーがかかっていますけど(笑)。私は、武田さんの塾の最終日に参加させていただいたのですが、塾生が、自分たちの仕事に誇りと自信を持って報告されている姿を見て、これが大事なんだなと思いました。職員が自分の仕事に「デイサービス・ワークを感じないで、利用者さんの「デイサービス・ワーク」を実現できるわけではないです。私塾では「とにかく安い下請けの仕事は止めて、自分の所で新しい仕事をつくる」ことを目標に始めていくつもりです。時代の流れから考えると、これだと思える仕事は「食品の製造・販売事業、リサイクル事業、サービス事業」の三つです。ただし、どれも簡単に成功できるわけではありません。物あまりの激しい日本で物を売るこ

ばしていかねばならぬかなかなか上手くはないかと。
新堂 そうです。こうした勉強を重ねながら、塾に参加した施設の現場を訪れ、働く環境、生産工程のアドバイスをしながら、一緒に具体的に改善を進めていきました。職員には、利用者さんの手順を改善した後、生産性がどう変化したかをチェックし、成果を報告してもらうようにしています。

「新しい仕事をつくるのは大変ですが、あえてそれに挑んでほしい」 亀井氏
理事長 では今年からスタートとする亀井塾について、亀井さんの



Profile-亀井勝氏
1937年、大阪市内に生まれる。1977年にひびき共同作業所(無認可小規模作業所)開設。1984年、社会福祉法人認可。ひびき共同作業所を知的障害者授産施設ひびき作業所に改称し、常務理事および施設長となる。1997年、大阪府社会福祉協議会セルフ部会部会長。授産施設、ハイ・ワーク「ひびき」開所に伴い施設長に。2001年には全国社会福祉協議会全国社会就労センター事業推進委員長となる。その後、定年退職に伴い全役職を辞任し、社会福祉法人ひびき福祉会理事長に就任。障がい者の就労保障と自立を目指し、大阪を中心に約30年間活動され続けた功績により第7回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞を受賞。

とは難しい。食品づくりも障がいによってできる人とできない人が出てくる。リサイクルの仕事は、体力のある人じゃないとできない。サービス業は怒りっぽい人では無理。まして新しい仕事をはじめるとなると、職員には大変な努力が必要となります。でもそれをあえてやるべきなんです。いまは塾で学んでいく内容をどう組み立てていこうかと悩んでいるところです。

「デイーセント・ワークの実現には

職員個人の技を伸ばすことが必要」 藤井氏

藤井 ヤマト福祉財団の活動も今年でもう20年になるのですね。スタートして3年目からパワーアップセミナーが開催され、私も協力させていたできてきましたが、スタートした頃は、もっぱら施設の運営をどうするか、経営の基礎をどうするかということに留まっていた。中盤になり『経営を効果的に学ぶには、良い事例、ベンチマークを知ることが大事』だとなっ

が、塾生が自信を持って先に進めるように、みなさんと一緒になって頑張っていきたいと思っています。
理事長 三つの実践塾では、障がいのある方の本当の幸せとはなにかを考えると、デイーセント・ワークを大前提にした事業改革を指導されていきますが、このデイーセント・ワークについて、藤井さんに解説していただきます。

ていきましたが、それでもまだ受け身の状態だったと思います。それがここに来て、やっと能動的に『自分から学びたい、新しい福祉に変わるための術を獲得したい』という意欲的な人が参加するフォーラムに変わってきました。この変化の根底にあるのがILO(国際労働機関)が提唱している『デイーセント・ワーク』への意識の高まりだと思っています。

今、いる場所から 一歩踏みだそう



経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

私たちの目指すデイーセント・ワークとは『障がいに関係なく、人間らしい人間の尊厳を尊重した働きがいのある仕事』という意味ですが、この実現には二つの観点が重要だと思います。一つは障がいのある人の労働を、一般市民の水準にいかにか近づけるか。もう一つは、その人が持っている力をどう最大限に引き出すかです。一般的には働くことで生計を成り立たせてい



Profile-藤井克徳氏
1949年、福井県生まれ。1977年に共同作業所全国連絡会(現・きょうされん)結成に参加、その後、事務局長を務め、1994年には社会福祉法人きょうされんリサイクル第2洗びんセンター施設長となる。現在は社会福祉法人きょうされん常務理事、日本障害者協議会常務理事、日本精神衛生会理事、WI(ワーカアビリティ・インターナショナル)理事、WIA(ワーカアビリティ・インターナショナル・アジア)副代表、(財)日本精神衛生会理事、日本精神保健福祉政策学会理事、ヤマト福祉財団評議員、ヤマト福祉財団小倉昌男賞選考委員なども務め、幅広く活動を続けている。

ます。障がいがあっても基本的にこの考え方を踏襲すべきです。それには一人ひとりがもっている潜在能力の開花が鍵になります。障がいのある人の力を十分に発揮できていない事業体がまだまだ多いのではないのでしょうか。では、どうやってこれを実現するか、アプローチの仕方は二つです。一つは生産性を上げるための職員の人的サポート、もう一つが働く環境を整え労働手段を工夫することです。そのためには、国の制度によるバックアップも必要ですが、合わせて大事なことは職員一人ひとりの技を伸ばすことです。その点でパワーアップフォーラムが果たす役割は大きいと思います。

理事長 そうですね、それらと連動して障がいのある方の夢を実現するのが『夢へのかけ橋プロジェクト』です。いままでは給料平均約1万3000円といわれる全国約7000カ所の施設すべてが、給料5万円の目標を達成できるように支援する方法を考えてきました

が、このプロジェクトは、それとは別に『みんなの目標となる、参考となる成功モデルを育てる』という狙いを持っています。三つの実践塾で計60人の塾生を集め、その中からたくさんの方に施設に成果を上げてもらえるように支援していきます。

藤井 『最先端を最前列』に出す、つまり『成功するノウハウや技術を持つ先進的な施設を、みんなの目につく場へ、前面へと押し出していく』ということですね。

現在、障害年金、給料を合わせても年間100万円に満たない方が6割近くいます。5万円の給料というのは、障がいのある人が一般の人の収入に近づけたための一つの節目なんです。これを達成できるところがいくつも出てくれば、同業者には大きな励みとなるはず。さらに、国の政策にも影響を与え、日本全体の障がい者の暮らしを変えていくことにもつながると思います。
理事長 『最先端を最前列』にとい



う意味では、私はぜひ最先端の人に「その技術を見える形」にしてももらいたいと思います。例えば、新堂さんがプライバシーマークを取得して成果を出したように『これやれば生産性がずっと上がる』そんなパターンをつくっていききたいのです。

『だれにでもわかりやすく見えるもの』をしっかりと示してあげ

れば、それをマネしたいという人も増えてきます。そんなベンチマークをたくさんつくっていくのが理想ですね。それをリードするのが実践塾となるわけですが、そのための方法として塾長のみなさんが、これから力を入れていきたいと考えられていることはありますか？

「正しいものづくり、正しい商売を 知らなければ物は売れない」 亀井氏

亀井 私が目指すのは、武田さんのはらから福祉会みたいにならぬように「武田さんと言えど豆腐」というように名前と商品がピンとくるようなものづくりですね。施設の顔となる一定のグレードを持った競争ができる商品づくりを進めていきたいと思います。でもその前にしっかりと学ばなければならぬことがあります。それは「正しいものづくり、正しい商売」です。私はこれまでにいろんな施設の人たちと、話をしてきましたが、みなさんはつきり言っていて欲張り過ぎです。「地元の食材を使って、安くて、美味しい、健康的なものをつくりたい」とってそんなのいいですよ。その中でなにが一番大切なのかを、まずは見極めてほしい。それを中心にして他の要素を付け加えていくようにしないとものづくりは成功しません。昔は工業高校などでもものづくりとはなにかを教えていたけれど、いまはそんな教育の場が少なくなっています。ものづくりのノウハウ、順序などを知らない人が多くなっています。例えば、美味しい食材でも美味しい食品にするには高い技術が必要なのにそれを理解していない。商品の価格も利益率などをきちんと計算して設定できていない。私の塾では、そういった正しい商売、物の売り方などから一つずつ教えていこうと思います。



それが無いと前には進めませんから。

新堂 私の塾も今年から新しい塾生が入りますので、『障がいのある方にとって働きやすい環境づくり』、『生産効率の高いラインづくり』などの基礎から教えていこうと思います。もちろんプライバシーシ

ーマークを取ったその後の経過報告もしっかり行っていくつもりです。実際に仕事量が増えていきます。売り上げだけではなく職員や利用者さんの仕事に対する意識までが変わっていったことを伝えていきたいと思っています。

もうひとつ大切にしたいのは『利用者さんへのアプローチの仕方』です。働く力をどうやって高めていくか。職員が利用者さんを『最初からできるはずがない』と見て



いるようでは駄目なんです。できないことばかりに着目するのではなく、できるんだと意識を切り替えてほしい。その上で指導の工夫、能力の見極めを行うことが大切ですね。

理事長 確かにできないと言っ

「利用者の給料は、職員の

利用者支援のバロメーター」 武田氏

武田 約3年間の実践塾の経験でビックリしたのは、『当然わかつ

ているはず、やっているはず』ということを、やっていない施設が結

しまつたら、それで終わってしまいますよね。どうやったらできるようになるかを考える、それも職員の仕事の一つです。では武田塾は、どこに力を入れられていきま

構あるのだという事実でした。1カ月の決算も出していなくて計画・実践・評価・改善を行えるはずがありません。今年はずまずやるべきことをきちんと整理し、はっきりさせて、「これができないなら塾生にはなれない」と宣言していこうと思います。

理事長 大事なものは、その会計情報を見分た目の目に見えてわかりやすいものにするかですね。いかに分析し、次に役立てられるかを積み重ねていくことでナレッジができていく。それがビジネスのプロとして強くなっていくことだと思えます。それには1週間でも、1日単位でも、自分たちが使

いやすくできる管理会計の仕組みづくりが必要かもしれませんね。
武田 確かにその通りです。あともう一つ、私が塾生にはつきりさせたいのが『利用者支援』です。多くの施設が利用者支援と給料アツプを両極に置いてどちらかにしようとしています。でもそんなのは

「夢をかなえる島とそこに渡るかけ橋を
具体的ににつくっていききたい」 有富理事長

「夢をかなえる島とそこに渡るかけ橋を 具体的ににつくっていききたい」 有富理事長

理事長 私は「夢へのかけ橋は数本あって、いくつもの島につながっている。その島に施設が渡ることによって利用者の夢を実現できていく…」そんな構想を抱いています。気軽に渡れるようにするには、だれにもわかりやすく具体的なものが良いですね。先ほど亀井さんが話された食品製造・販売サ

嘘です。利用者の給料が安いというところは、職員が満足に利用者支援できていないということなんです。『利用者の給料は、職員の利用者支援のバロメーター』だと私は考えています。環境を整える、魅力的な商品をつくる、障がいのある方がその仕事をできるように工夫することこそ『支援力』だと思います。

その結果として給料も上がり、利用者さんの夢がかなえられていくわけです。これを塾生に明確に伝えるにはどうしたら良いかが、いま私の課題ですね。そして給料3万円、4万円の壁を超えるサンプルを増やし、これなら私たちにもできそうだと思う事例をたくさんつくっていききたいと考えています。

藤井 『利用者の給料は、職員の利用者支援のバロメーター』この考えはいいですね。その感覚がある以上、障がいのある人一人ひとりをしつかりと見つめているので、強要することなども決して生まれないでしょう。

「型」みたいなものですね。それを見て「あの流儀で私もやってみたい」とマネをすることができるようになっていく、そんな流れができればと考えています。

亀井 ナレッジは大事ですね。私は先ほど「売り方を知らない」と言いましたが、売れるものをつくれませんが、売れるものをつくれ

理事長 厳しいけれど、それをできているところもありますよね。

武田 そうですね。そこで大事なのが、塾生がいまどのレベルにいるのかを我々が見極めてあげることだと思えます。ギャップが大きすぎると前に進むことはできません。

武田 現状の事業を一生懸命やっても現状のままなんです。新しく

挑戦、とにかく新しいことをはじめないと変えることはできません。お客様を獲得できてもそれに対応する努力がまた求められます。注文がたくさんきたなら、量産できる設備や品質を確保する管理体制も必要です。自分たちの力量が高まれば、それに応じたお客様がやってきますから、いろいろな形で厳しい自己改革が求められるのです。

※1)ナレッジ…問題の解決に直接役だった知恵や経験、経営のコツの蓄積をナレッジという。



ん。働く環境を変え、商品を開発し、お客様を開拓していく。そのための知恵を出して、一緒に工夫していくことが私たち実践塾の役割の一つですね。

藤井 日本の障害分野はまだ発展途上にあります。教育や医療については、良き教員や医師がいればそれらの充実は可能です。でも労働となるとそうはいきません。自分の手で何かを生み出し、最終的には市場で通用するものでなければなりません。だからこの分野は難しいのです。障がいのある人の労働力は障がいのない人の半分以下の場合もあります。その労働力の不足分を職員が学んだ技術を活かし、カバーできるようにになれば素晴らしいですね。その技術を学ぶのが実践塾であり、塾長さんたちはその最前線にいます。この『夢のかけ橋プロジェクト』は、就労分野全体の底上げを図ると同時に、新たな方向を創り出す点からも大いに期待できるものと思います。

理事長 いろいろな困難があるかと思いますが、先端的な施設を育て、最前列に押し出してあげることで、全体のレベルを上げることが可能になると思います。利用者さんに幸せになってもらうことを目標に、これから1年間、よろしくご協力をお願いします。

一同 こちらこそよろしくお願ひします。





さらに、「夢へのかけ橋」の向こうには
月収10万円の世界が待っています。

- 月収10万円の島
- ▶生活が安定する
 - ▶できる仕事が増える
 - ▶働くよろこびを実感できる
 - ▶夢を実現できる

障がいのある方々が経済的な自立力を備えたとき、
それぞれの夢が描かれ実現に向かって歩み始めます。
その思いから生まれたのが、「夢へのかけ橋プロジェクト」。
障がい者の働く場を、経済的に自立した
「夢のある職場」へと変えるために、行動を起こすプロジェクトです。
現状に満足できない、将来に夢を持ってない。そう感じていたら、
さあ、私たちと一歩を踏み出しませんか。

**[障がい者の働く場パワーアップフォーラム]
日程と会場**

大阪会場	7月12日(金)10:00 - 17:00	大阪国際会議場 / 大阪市北区中之島
福岡会場	7月19日(金)10:00 - 17:00	エルガーラホール / 福岡市中央区天神
東京会場	7月26日(金)10:00 - 17:00	灘尾ホール / 東京都千代田区霞が関

[夢へのかけ橋] 実践塾 日程と会場

開講式・第1回合同研修会	9月27日(金) 13:00 - 9月28日(土) 15:00	晴海グランドホテル
第2回 (武田塾・亀井塾 新堂塾)	10月25日(金) 13:00 - 10月26日(土) 15:00	晴海グランドホテル
第3回	11月15日(金) 13:00 - 11月16日(土) 15:00	晴海グランドホテル
第4回	平成26年1月~2月	
第5回	「夢へのかけ橋」 実践塾 合同研修会	平成26年8月
第6回 (最終回)		平成27年3月 平成27年8月

パワーアップフォーラムに参加して、
現状を見つめ直し、
ステップアップのきっかけをつかもう。

パワーアップフォーラムは、同僚と誘い合って参加するのがポイント。
施設に戻ってすぐに打ち合わせを始めることができます。次の目標
は何か、見つけにきてください。

**夢へのかけ橋
プロジェクト**



経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

今年から新たにスタートする「夢へのかけ橋プロジェクト」。パワーアップフォーラム・「夢へのかけ橋」実践塾・事業改革モデル化資金の要項は、ヤマト福祉財団のホームページで詳しくご案内しています。

参加登録方法

障がい者の働く場パワーアップフォーラム

ヤマト福祉財団のホームページに登録

受講票の発行・送信

受講票のプリントアウト

会場受付 受付期間 4月20日～
各会場定員になり次第締め切ります。

実践塾

障がい者の働く場パワーアップフォーラムへ参加

会場にて参加アンケート記入(受講票が必要です。)

参加アンケート提出と引き換えにエントリーシート受け取り

エントリーシートに必要書類を添えて提出

受付期間 パワーアップフォーラム終了後 8月15日まで
選考発表 9月2日

お問い合わせ：03-3248-0691
ホームページ <http://www.yamato-fukushi.jp>



- 月収5万円の島
- ▶ 工賃が上がる
- ▶ 仕事がたくさんある
- ▶ やりがいを感じられる
- ▶ 夢が広がる



事業改革モデル化資金を使って、
店をオープン！
月収5万円を実現！

「夢への架け橋」実践塾に参加しよう。

最初に今の仕事の収入・支出の状況を分析。目標達成のための設計図づくりなどを通して事業改革を推し進めます。他の施設でも応用できそうなプランには、事業改革モデル化資金の適用があります。



みんなで変わろうよ！



START!

今、いる場所から一歩踏み出そう。

「社会の中で暮らすこと、楽しむこと。」この原動力は、経済的な自立力を兼ね備えることにほかなりません。現状維持より変化を求めて、行動しませんか。

東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金

助成先を訪ねて



この町の夢を 次の世代へつなぐために

震災から2度目の冬を乗り越え、おだやかな春の訪れとともに、各助成先での復旧も力強さを増してきています。お話を伺ったみなさまに共通しているのは「いまはどんなに厳しくても、この一歩を故郷の未来を担う若い世代につないでいけたら」という思いです。

【農地復旧復興(純国産大豆)プロジェクト】

(第4次助成) 福島県相馬市

田畑を大豆畑に変えて 農地を再生 初の収穫は 予想以上の結果に



助成で購入した農業機械で大豆の刈り取り作業を開始

津波で失った農業機械を市が助成で購入し農業法人に貸与

「震災後初の大豆の刈り取りを行い、約11haの作付けに対し約8tと予想以上の収穫量です」。昨年11月末、そんな喜びのメールが、合同会社飯農ファームの竹澤一敏さ

んより届きました。

福島県相馬市の農家は、津波で田畑に塩害の被害を受け、農業機械も流されてしまいました。さらに原発事故の風評被害で状況はより厳しくなり、お年寄りの農家の中には営農再開を断念する方も。そこで相馬市は、稲や野菜を生産



動きはじめた農業機械(24年8月)

していた田畑を塩害に強い大豆畑に変えるプロジェクトを計画。助成を活かして農業機械を購入し、プロジェクトに参加する農業法人に貸与することになりました。この支援を受けたのが合同会社飯農ファーム、合同会社岩子ファーム、合同会社アグリフード飯淵です。昨年6月に農業機械を交付。颯爽と並んだ18台のトラクターを前に「将来は豆腐や豆乳、味噌、醤油などを製造販売し、若い世代が相

宮城県

【宮城県漁業協同組合】

(第4次助成) 七ヶ浜町水産振興センター建設事業
平成25年9月完成を目指し
センター再建をスタート



穿始の儀で鉄を入れる有富理事長

自前のノリ種苗を
使ってこそ
真のブランド力
向上となる

『七ヶ浜町水産振興センター』は、

宮城県で唯一、ノリ種苗の生産を行ってきた重要拠点

であり、他にもマユガレイの種苗生産およびヒラメやホシガレイなどの中間育成、放流事業も行っ



「この起工式で復興と菊地の光明が見えました」と、地伸悦経営管理委員長の言葉が、地伸悦経営管理委員長の言葉が、国内生産の最北端ノリ

「復興という目的を果たすには、安定した高品質の種苗の確保、そして栽培漁場の推進は欠くことができない」と、宮城県漁業協同組合はこの助成を活かして、センター再建を計画。ノリ種苗培養のための水槽を102基設置、また海水の殺菌や水温のコントロールなど、従来になかった設備強化を行うとともに、災害時には避難所としても機能できる3階建てで、平成25年9月完成を目指しています。

3月4日に行われた起工式で菊



[[いわて三陸]夢あふれる漁業モデル創生プロジェクト]

(第5次助成) 三陸漁業生産組合

6次産業化へ向けて
新たな船出
共有使用船舶の
進水式を開催



海原を進む三陸漁業生産組合の共有使用船舶“第十七天王丸”

いわて三陸の魚介を自ら加工・販売し魅力的にアピール

今年1月14日、大船渡市越喜来地区で共有使用船舶「第十七天王丸」の進水式が開催されました。やっと手にした自分たちの船で颯爽と海原を進む漁師たち。この船に

助成で備えた漁具を携え、春からは本格的に漁業を再開します。しかし、これまでの道のりは決して楽ではありませんでした。越喜来地区の漁師・熊谷善之さんたちは、津波で572隻あった漁船のうち500隻を失いました。「新しい漁船は必要だが、購入して

「若者がこの町で水産業に就きたいと思える、夢のある漁業へ」。現在、高鮮度な製品の長期間保持を急速凍結庫で行うチーム、また浜の郷土料理・漁師飯を提供する食堂や直売所と連携し、新しい魅力をアピールしようとしています。

馬市の農業を継承できる体制を整えたい」と復旧の意志を強めました。早速、塩害に侵された田畑で耕作、種まきを開始。梅雨の湿害をこの地域特有の「やませ」という気候でかいくぐり、また夏場の害虫被



確かな手応えを得た初の収穫(24年11月)

害も逃れて、大豆はすくすくと育ち、収穫の秋を迎えました。この大豆を植えた後の土地には特別な菌が発生し、土は豊かに生まれ変わるとされています。「復興途上の私たちには収穫できたことがなによりもうれしい。商業的な成功にはまだほど遠いかもしれませんが、コレならいけるのでは」という手応えをつかみました」と竹澤さんたちは、収穫量以上に大きな成果を得ています。



進水式で贈られた記念の盾には、大漁旗の柄と一緒に東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金のマークも



船の安全と大漁を祈願して行われた進水式

[福島県厚生農業協同組合連合会鹿島厚生病院併設介護老人保健施設]

(第5次助成) 厚寿苑の新設事業
南相馬市の介護、福祉を支える
新施設の起工式を開催

福島県



新施設は平成25年11月完成を予定

避難地域の高齢者が安心して暮らせる体制へ

南相馬市は、福島第一原子力発電所から30km圏内が警戒区域や緊急時避難準備区域等に

指定されました。指定外地域の中心部に位置する鹿島区は、多くの被災者の避難地域となり、人口は高齢者を中心に震災前から約2000名も増加。その一方で病院は16施設から9施設へ、老健施設も8施設から4施設へと減少しました。そのため相対地域全体の医療・介護環境は悪化、特に老健施設



施設には居室、機能訓練施設のほかに地域の方が集まる地域交流スペースも併設

望んでいる介護施設が完成すれば、復興への期待の星となると思いますが、と挨拶されました。

今年1月31日に行われた起工式で、JA福島厚生連の庄條徳一経営管理委員会会長は「地域に不足している介護や福祉の需要に応え、さらに高齢化対策を含めた包括的な医療、介護も提供できるようにします」と挨拶。桜井勝延南相馬市長は「形に見える復興がなによりも心の支えです。みなさんが待ち望んでいる介護施設が完成すれば、復興への期待の星となると思いますが、と挨拶されました。」

生産地である『みちのく寒流のり』の真の意味でのブランド力の向上に、本施設を最大限に活かして邁進します」と挨拶。現在、ノリの生産状況は6割弱まで復旧してきましたが、生産者は「やはり地元の自



施設はノリ種苗培養棟、栽培種苗生産棟、作業管理棟で構成



私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金



助成先レポート

Vol. 17

古い洋館を再生し、コミュニティ・レストランの2号店を開店！

NPO法人かたつむりの会
町家カフェ上屋敷 二丁目
ララ・ロカレ
就労継続A型(和歌山県田辺市)



エントランスで、スタッフのみなさんと。最奥は浜田明宏和歌山支部執行委員長



大正時代に建築され、かつては街の公民館として務めを果たした木造洋館。老朽化が激しく、地元・和歌山県田辺市も取り壊しを予定していました。この建物をコミュニティ・レストランに改装し、街づくりと就労支援の舞台に再生させたのは、地道な取り組みを進めてきたNPO法人「かたつむりの会」です。

街と人を元気にするレストラン

紀伊田辺駅から海へ向かって車で5分程。「上屋敷」という住所の通り、お屋敷町に白亜の洋館が建っています。地元の食材にこだ

わったイタリアンを、このレトロな佇まいで提供する「ララ・ロカレ」は昨年9月にオープンしました。評判も上々で女性客を中心に客足が絶えませんが、告げられないければ、障がい者が切り盛りする

就労支援事業所だとは誰も気づかないでしょう。

「立地もさることながら建物への愛着から、どうしても残したかった」と語るのは、運営する「かたつむりの会」の河原美和子代表です。

古くは城下町として、あるいは熊野古道の入口として商業の盛んだった田辺に、人や情報の集まる場をつくり、かつての活気を取り戻したい。

26年間、養護学校教員をされていた河原さんは2006年に退職すると、「街づくり」と障がい者や社会的ひきこもりと呼ばれる方たちの「就労支援」をキーワードに活動を開始します。2年後にはNPO法人を設立。翌2009年には、コミュニティ・レストランの第1号店「町家カフェ上屋敷二丁目」の開店に漕ぎ着けました。

決意の2号店出店

開店すると、ここで働きたい



ララ・ロカレ外観と店内 年配のお客様から「建物をこのように生かしてくれてありがとう」との言葉も。



話を聞いて、 ともに手を取り…



●ヤマト運輸労働組合
和歌山支部執行委員長
浜田 明宏さん

障がいのある親しい友人はいるのですが、こうした施設を訪問させていただくのは初めてでした。

第一印象は、お店のスタッフがみなさん本当に頑張っているという事です。

また、つねに人の話をよく聞いてあげることが一番、大事なんだとあらためて思いました。

気配りとか、相手の立場に立って…、と口で言うのは簡単ですが、一人ひとり考え方も違いますし、置かれている立場も違います。

僕自身支部委員長になって3ヵ月。「相手の気持ちにきちんと寄り添って、そのうえでどう行動するのか」、これをしっかりと肝に銘じてやっていきたいと思えます。



ランチセットの「磯間でとれたがりびりシラスと旬の野菜のペパロンチーノ」は、たつがりシラスでボリュームも満点と、この日のお客様にも好評でした



パンづくり、ソースの仕込み、自家製麺づくり、ホール担当…、自信をもって、店を切り盛りする利用者さん



河原美和子「かたつむりの会」代表



「お褒めをいただいたときはすぐに利用者さんに伝えます。すると、みんな手応えを実感して自信を深めているようです」と店長の坂本賢志さん

と希望する利用者は引きも切らず、就労時間を制限してもつねに満員。このままでは安全確保にも支障をきたしかねない…。そこで2号店の候補として白羽の矢を立てたのが旧公民館でした。

耐震化も含めた改修費用は総額6700万円にも上りましたが、多額の借入れに加え、当財団からのレベルアップ助成金500万円も活用し、これに充てました。

和のテイストが売りの1号店とは趣を変え、「地元」を意味するイタリア語から「ララ・ロカレ」と命名。1階には厨房とベーカリー、レストラン。2階にはライブやシンポジウムも開催できるギャラリースペースを設けました。

「単に観光地化の視点だけではなく、地元の人々が街を振り返って、その良さを見出し、活性化して

いくための『場』になれば…」そんな願いが、この2号店には詰まっています。

みんなで元気になる!

13名だった定員は、2号店の開店で23名まで受け入れることができるようになりました。また、1号店については従来どおり週20時間労働（最低賃金保障・雇用保険加入）を基本とする一方で、2号店は希望すればフルタイムでも働けるよう違いを設け、ステップアップをしたい利用者さんのモチベーションに応えました。

開店以来、売上も順調に推移し、平均給料も目標にしていた月額をクリア。2号店では約5.5万円を達成しました。最高で月に12万円を手にする利用者さんもいます。

「開店まもない忙しい時期に、体調を崩された利用者さんが出ました。幸い、しばらくして復帰されましたが、お店を経営する以上、仕事に妥協せず、お客様には来た甲斐があったと感じて帰っていただきたい。ですが、なぜこの事業をしているのかといえば、利用者さんの成長だったり、自信をつけてもらうことの意味合いが大きい。どちらもおろそかにはできないところが、本当に難しいですね」

すぐに相談支援員をスタッフに加えました。より充実した支援体制をめざして「他の支援グループ、医療機関などの連携をさらに太いものにする」ことがつぎの目標だと河原さん。

みんながいつしよになって、良い店づくり、良い街づくりに励めば、乗り越えられないものはない――。生まれ変わった洋館が、なによりそれを証立っているように感じました。



こちらは1号店の町家カフェ上屋敷二丁目。利用者が制作した石窯で焼くピザが一押し

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

地図にマークした数だけ、 社会との接点が増えていく。

JR新潟駅から車で7分ほどの住宅街に、聴覚障がい者を支援する「手楽来家(てらこや)」はあります。メール便配達を始めて約1年。毎日配達している3人のメイトさんの工夫や努力によって、聞こえないことから生まれるハードルを乗り越えていきました。



水道工事などに使う防水素材で、手作りのメール便の配達袋。雪も雨も寄せつけません。



「外で体を使う仕事がしたかったので嬉しい。ずっと続けたい」と趣味のボーリングがプロ級のスポーツマン横尾聡さん。現在みんなで月に7,000冊の配達数を、1万冊に増やしたいという目標を持っています。

2012年4月に開所した聴覚障がい者を支援する「手楽来家(てらこや)」は、発足当初からメール便配達に取り組んでいます。職員で手話通訳の毛利真大さんは、施設立ち上げの準備期間から、インターネットでメール便配達に関する情報を集めていました。そして、聴覚障がい者に適した仕事だと判断。事業展開を進めます。

「最初、インターホンで会話ができないことが、配達の支障になるのではと心配しました」と毛利さん。そこで、「耳が聞こえないので、紙に書いていただけると助かります」というメッセージを名札に入れる工夫をしたそうです。しかし、心配とは裏腹に、実際はあまり使われることはなかったとか。メイトさんと職員がタッグを組んで、ひとつひとつ問題をクリアしてきています。

チャイムを押すのは
2回までというルール。

メール便配達には投函するだけでは



横尾聡さん(左)と加藤洋一さん(右)は、メール便をエリア別に段ボールの中へ、手際よく仕分けていきます。

なく、ポストに入らない大きさのメール便は、直接、お客様に手渡さなければいけません。聴覚障がいのメイトさんにとって、高いハードルがここにありました。
最初は、インターホンで返事をしてもらっているのかどうか分からずに、チャイムを何度も押ししてしまいがち、クレームにつながっていました。

●新潟主管支店 新潟米山センター

面積2Km²/人口16,962人/世帯数8,561世帯

●特定非営利活動法人にいまる地域活動支援センター「手楽来家」

2012年4月、メール便配達事業を開始。メイトさんは4名。
1日の平均配達数約230冊。

その他古紙回収、チラシのポスティング、清掃などを取り扱う。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

参入施設数 318施設 従事者数 1,498人(2013年2月現在)

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 メール便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>



「週に4~5日、いつも笑顔で配達してくれます。もうおなじみですよ」と(株)栄モータースの方。加藤洋一さん(左)は、会社やお店などが点在し、手渡し配達の件数が多いエリアを担当しています。

これは、すぐにドアを開けてくれなくても、チャイムを押すのは2回までというルールにし、持ち帰って、再度職員と一緒に配達することで解決しました。また、インターホンのカメラに向かって、耳が聞こえないという仕草でアピールしてから、メール便をカメラにかざすことでクリアできることも増えました。今では職員との配達や、何度も届けることで顔を覚えてもらい、支障なく配達できています。

また、端末機は入力時やエラー時にピーツという音で分かるように作られています。この音が聞こえないメイトさんたちは、最初は操作に手間どったそうです。しかし、注意深く表示を目で確認することで慣れていき、今では全員が端末機を問題なく取り扱っています。

袋小路が多いエリアだからルート取りがポイントに。

朝は、エリア別に住所を貼った段ボールにメール便を入れていく仕上げ作業からスタートします。仕分けが終わると、エリア別にクリアファイルに入れた手持ち用の地図に、マーカーで配達先を一軒一軒、印をつけていきます。油性マーカーで地図に記したこのマークは、毎日アルコールで消して、一新しています。

朝の仕分け作業をしながら、メイトさんの横尾聡さんが行うのは、ノートへの記載とチェックです。表札のないアパートなどの部屋番号や名前を記載し、次回の配達の手引きとします。引越などで不明、変更があったときは付箋を貼るなどして、情報を更新していきます。このノートはすでに4冊。エリア内の情報がすべて詰まっています。

不安に思ったら必ず持ち帰って確認。

さらに、壁には、必ず手渡しをする配達先、会社の休日などを共有できるように、注意事項が貼られています。中には、視力が弱い相馬良平さんのために、ポストまわりが暗いアパート名を伝えるメモがありました。

「合っているかどうか不安に思ったら、必ず持ち帰って確認する」というのが、みんなで決めたルール。メイトさんたちはその日の出来事を手話で共有しています。もし誰かが休んでも、代わりの人が問題なく配達できるよ

うにと、万全の体制が取られているのです。しかし、この一年、全員ががんばっています。



職員の毛利真大さんは、メイトさんと、ヤマト運輸の担当者や地域の方々との間を手話で通話し、コミュニケーションを図っています。「聴覚障がい者の仕事はどうしても屋内作業が多くなります。外に出る仕事を通して、もっと社会と接点をもっとほしい。そして、「手楽来家」の活動によって、地域の方の聴覚障がい者への認識を高めていきたい」と話します。

質の高いサービスに安心。これからも期待。

ヤマト運輸 新潟主管支店新潟紫竹山支店 阿部和人副支店長は「最初は1日10冊から始めたのに、今では多い日は400冊の配達もこなしています。独自の工夫に、やる気と責任感を感じます」と質の高いサービスに、今後も期待していると言います。

新潟主管支店メール便課の川口浩一課長は「新潟主管支店管下には6ヶ所のクロネコメール便配達施設がありますが、どこも誤配やクレームがほぼないという共通点があります。まだまだメイトさんが足りないという現状があり、条件を整えれば、もっと委託する仕事を増やしていきたい」と話します。

「ありがとう」と挨拶してくれる方がいるそうです。何度か配達しているうちに「おはようの手話は？」と聞かれて、短い手話教室になることもあるとか。手話を楽しむにいつでも来てもらえる家、という願いを名前に込めた「手楽来家」。今ではメイトさんが地域に向かって大きく扉を開きました。毎朝、笑顔と一緒に届けるメール便によって、メイトさんたちは配達の数だけ、社会との接点を増やしています。



前列右から／「手楽来家」職員 毛利真大さん、相馬良平さん、横尾聡さん、加藤洋一さん
後列右から／ヤマト運輸 新潟主管支店メール便課 川口浩一課長、新潟紫竹山支店 阿部和人副支店長・小島勝夫支店長、ヤマト福祉財団 北信越支部 酒井真事務長



NASリネンファクトリー浮間舟渡工場でクリーニング作業に励む見山佳輔さん。スワン工舎でのクリーニング作業の経験が活き、即戦力として活躍しています。

任せてもらえたから仕事が楽しい スワン工舎の経験が活かされています

大野部長（左）と見山佳輔さん（右）

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 就労に必要なスキルの習得はもちろんです。就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

■スポーツクラブNAS株式会社 日本全国でスポーツクラブや各種スクールの運営管理などを展開するスポーツクラブNAS。関東30カ所のスポーツクラブで使用するスポーツウェア、バスタオルなどのクリーニングをNASリネンファクトリー浮間舟渡工場で行っています。



見山佳輔さん スポーツクラブNAS株式会社NASリネンファクトリー浮間舟渡工場(平成24年12月5日入社)



機械操作もテキパキ。仕事ののみ込みの早さはスワン工舎の頃から折り紙付きです



「いまの課題はコミュニケーションです。自分から話しかけられるように頑張ります」と見山さん



スポーツクラブNAS株式会社NASリネンファクトリー浮間舟渡工場
管理本部総務統括部
アメニティ管理部部長 大野 勉さん

「障がいのある方は、多少仕事の対応幅が狭いかもしれませんが、同じ職場の仲間としてみんなでサポートし合い、仕事をこなしていきます。」と大野部長は話します。

「入社した最初の仕事から、見山さんの担当したタオルはきれいに仕上げられていて感心しました。これはスワン工舎でクリーニング作業を経験され、機械の取り扱いにもなっていたからなのでしょうね。こちらが気になった点も、一度伝えれば次からはきちんと対応できていますし、安心して仕事を任せています」と大野勉部長。

大和ハウスグループの一員・スポーツクラブNASは、以前外注していたタオルやウェア、エステ用品などのクリーニング業務を社内ですることとし、この仕事で積極的に障がい者雇用を広げることにもなりました。一昨年1月に開設したNASリネンファクトリー浮間舟渡工場には、現在、見山さんをはじめ、障がいのある方7名が働いています。

「障がいのある方は、多少仕事の対応幅が狭いかもしれませんが、同じ職場の仲間としてみんなでサポートし合い、仕事をこなしていきます。」と大野部長は話します。

「洗濯物の取扱量には波があり、多い時はタオルの折りたたみ機のカウンターが7000枚を超えることもあります。当然、効率を上げる目的もありますが、各人の個性に合わせて得意な仕事を担当できるように配慮しています。得手不得手はだれにもあるわけですからね。見山さんは、少し人見知りなところがありますが、入社時に比べれば、随分と明るくなったと思います。とにかくみんなが楽しく笑顔で仕事ができることが一番だと、私は考えています。」

見山さんの勤務時間は、9時から16時と実働6時間。週休2日で勤務し、社会保険も適用されています。

NASリネンファクトリー浮間舟渡工場では、関東に展開する約30カ所のスポーツクラブから大量のタオルやスポーツウェアなどを毎日回収し、昼・夜二回と機械をフル稼働させてクリーニング作業をします。



「初めて手にした給料は本人の予想以上に多かったです。大好きなAKBのCDを買って、家族にお年玉もくれたんですよ」とお母さん

【第5回卒業生の集い】



卒業生の近況報告、家族に感謝の言葉もありました



一人ひとりに修了書が授与されました



平成24年度の卒業生は14名です

今年7年目を迎えるスワン工舎新座では、これまでに105名が卒業し、85名の方が就労を実現しています。

2月23日(土曜)に開催した「第5回卒業生の集い」には卒業生、ご家族あわせて74名が出席しました。「卒業生が互いに励まし合い仕事を続けていけるように」と有富慶二理事長より挨拶があり、その後、今年度の卒業生14名が、いまの仕事と生活について近況を話しました。



颯爽としたスーツ姿の卒業生は頼もしくみえました

働く喜び、 夢をかなえる楽しさを 報告しました

一人ひとりが仕事に
生きがいを感じています

最初の報告は(株)ユニクロ東久留米クルネ店で働く新樂翔太さん。「家族のためにも頑張ります」と意欲一杯です。(株)ユニクロ池袋東武店の山田隆太さんは「職場に韓国や中国人の同僚もいて一緒に働くのが楽しい」と話しています。玉田忠寛さんは、ヤマトオートワークス(株)で大好きな車に携わる仕事に就けて喜んでいきます。「もっと仕事がうまくなりたく」と話すのは、スワンバーカーリー銀座店で働く山下耕平さん。小玉祥太郎さんは、(社福)埼玉福祉会で清掃業務を任されています。

震災で茨城から埼玉に引っ越してきた乃田つぐみさんは、(株)ABCマート新所沢パルコ店でバックヤードの在庫整理をしています。ヤマトホームコンビニエンス(株)で伝票整理やパソコンの入力作業を担当する柿本恭孝さんは「充実感があり楽しい」と報告。スポーツクラブBNAS(株)の見山佳輔さんは「クリーニン

グの仕事にも慣れ、今後の課題はコミュニケーションです」と話しています。

(株)キユーソーエルプラン中日本で商品の検品を行う糸山豪太さんは、自転車で毎日元気に通っています。「お弁当の盛り付けが楽しい」と話すのは、共生ネットワークで得意な調理の仕事に就いた星野暁子さん。河村洋平さんは、今年1月からスワンカフェ銀座で働きはじめたばかりなので、早く新しい仕事と生活に慣れようと頑張っています。

時間はかかってもいい
自立に向けて進んでほしい

全員の報告を聞き、スワン工舎新座の道祖土常務理事は「就職をゴールとしないで、その先の自立に向け、時間がかかっても良いので一歩一歩近づいてほしい」と、今後の期待を込めて挨拶しました。

その後は、卒業証書の授与を行い懇談会へ。卒業生は、保護者と一緒に懐かしい仲間と再会、楽しい交流の一時を過ごしました。

伊東屋さま、社員のみなさま、 カレンダー販売のご協力 ありがとうございました

毎年、東京・銀座の伊東屋さまより、カレンダーのご寄付をいただいています。今年も、そのカレンダーをヤマト運輸支社・主管支店で販売させていただき、多くの社員のみなさまのご協力を得て、収益金が84万4524円になり、ヤマト自立センターへ寄附いたしました。ご協力ありがとうございました。

四国支社



ヤマト自立センターへ寄附させていただきました





第14回

ヤマト福祉財団 小倉昌男賞 募集

障がいのある方にもっと働く喜びと生きがいを…

みなさまの周りで障がい者の自立支援などに取り組んでいる方を『第14回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞』にご推薦ください。

※詳しくはホームページ

<http://www.yamato-fukushi.jp/works/award/>
をご覧ください

[賞の内容]

- 正賞…雨宮 淳氏作ブロンズ像「愛」/副賞…賞金100万円
- 受賞者数…2名
- 募集方法…賞の候補者は、障がい者および障がい者福祉関係者の中から「推薦形式」によって募集します。ただし「他薦」とします。
- 募集期間…平成25年7月1日(月)から9月15日(日)まで

平成25年度 障がい者の働く場 「パワーアップフォーラム」のお知らせ

日程と会場

● 大阪会場

- 大阪国際会議場(大阪市北区中之島)
- 7月12日(金曜) 10:00~17:00

● 福岡会場

- エルガーラホール(福岡市中央区天神)
- 7月19日(金曜) 10:00~17:00

● 東京会場

- 灘尾ホール(東京都千代田区霞が関)
- 7月26日(金曜) 10:00~17:00

お申込みについて

- 参加対象…福祉施設関係者、本人、ご家族ほか、障がい者の働く場づくりに関心のある方々
- 参加定員…各会場200名
- 費用…参加費は無料、昼食500円(事前予約のみ)
- 参加登録方法…詳しくはヤマト福祉財団のホームページをご覧ください

プログラム概要

- 10:00 基調講演…「経済的自立力を備えた新しい福祉に向かって」
有富慶二(公財 ヤマト福祉財団 理事長)
- 10:45 時流講座…「障がいのある人のディーセントワーク」
講師:藤井克徳(きょうされん 常務理事)
- 11:30 小倉昌男賞受賞者講演…実践現場でわかったこと〜新しい福祉に向かって歩みつけてきた受賞者の講演
● 大阪会場 西澤 心(社福 まいづる福祉会)
フレンチレストランでつかんだ夢 飲食業のオンリーワンモデル
● 福岡会場 天野 貴彦(社福 ウィズ町田)
A型事業所と就労移行の連動で 利用者の選択の幅を広げる
● 東京会場 楠元 洋子(社福 キャンパスの会)
クリーニングやお弁当づくりで支える“新しい暮らし”
- 12:15 《休憩》
- 13:15 特別報告…障がい者の働く場革新塾・障がい者の暮らし変革塾
〜2年間の実践で変わった利用者工賃〜
武田 元(社福 はらから福祉会 理事長)
新堂 薫(社福 武蔵野千川福祉会 常務理事)
- 14:25 《休憩》
- 14:45 ビデオ…「夢へのかけ橋」
新年恒例の実践レポートビデオ。
今年は、仕事で得た新しい暮らしを徹底レポートします。
- 15:00 シンポジウム…「経済的自立力を備えるための経営に挑む」
なぜ利用者の給料向上をすすめてきたのか、参加者のご意見も交えながら、働くひとの夢実現の意味を深めます。
実践塾リーダー:武田 元/亀井 勝/新堂 薫
小倉昌男賞受賞者:西澤 心(大阪会場)
天野 貴彦(福岡会場)
楠元 洋子(東京会場)
コーディネータ:藤井克徳
実践塾公募説明
- 17:00 終了…アンケート記入・エントリーシートの配布